

株式会社 RCC文化センター

2018年度 環境経営レポート

(対象期間:2018年11月1日～2019年3月31日)

発行日: 2019年4月12日
改訂日: 2019年5月31日



RCC|BC

ごあいさつ

株式会社RCC文化センターは、昭和47年創設以来、40年以上に渡って積み重ねてきた多様な専門性を駆使し、お客様の抱える課題の解決のために、真摯に誠意を持ってお応えしてまいりました。

この度当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって、地球環境に優しい企業として、また、お取引先、ご利用される方々のより一層の「プラス」を考えるパートナーとして、新たな一歩を踏み出しました。

これを全社員に周知徹底し、環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んで行くことを宣言します。

環境経営方針

RCC文化センターの事業領域は多岐に渡っています。貸会議室、カルチャースクールの運営、店舗の環境演出提案をするCS事業、生命保険、損害保険を扱うフィナンシャル事業、広告立案、イベント企画運営をする広告・イベント事業、指定管理業務を担う開発事業を行っています。

当社のスローガンは「あなたに...プラス+」。信頼されるパートナーとして、常にお取引先、ご利用される方々のより一層の「プラス」を考える、そんな想いを込めています。持続可能な社会づくりに向けて、積み重ねてきた多様な専門性を生かして、環境経営を推進します。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
3. 廃棄物排出量の削減及び廃棄物の再生利用を推進します。
4. 水使用量の削減を推進します。
5. 化学物質使用量の削減(或いは適正管理)を推進します。
6. 紙使用量の削減を推進します。
7. 事業活動を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みを進めていきます。
8. 本方針を全従業員に周知徹底します。

作成日： 2018年11月1日

改訂日： 2019年5月31日

代表取締役社長 下島 英治

取組の対象組織・活動

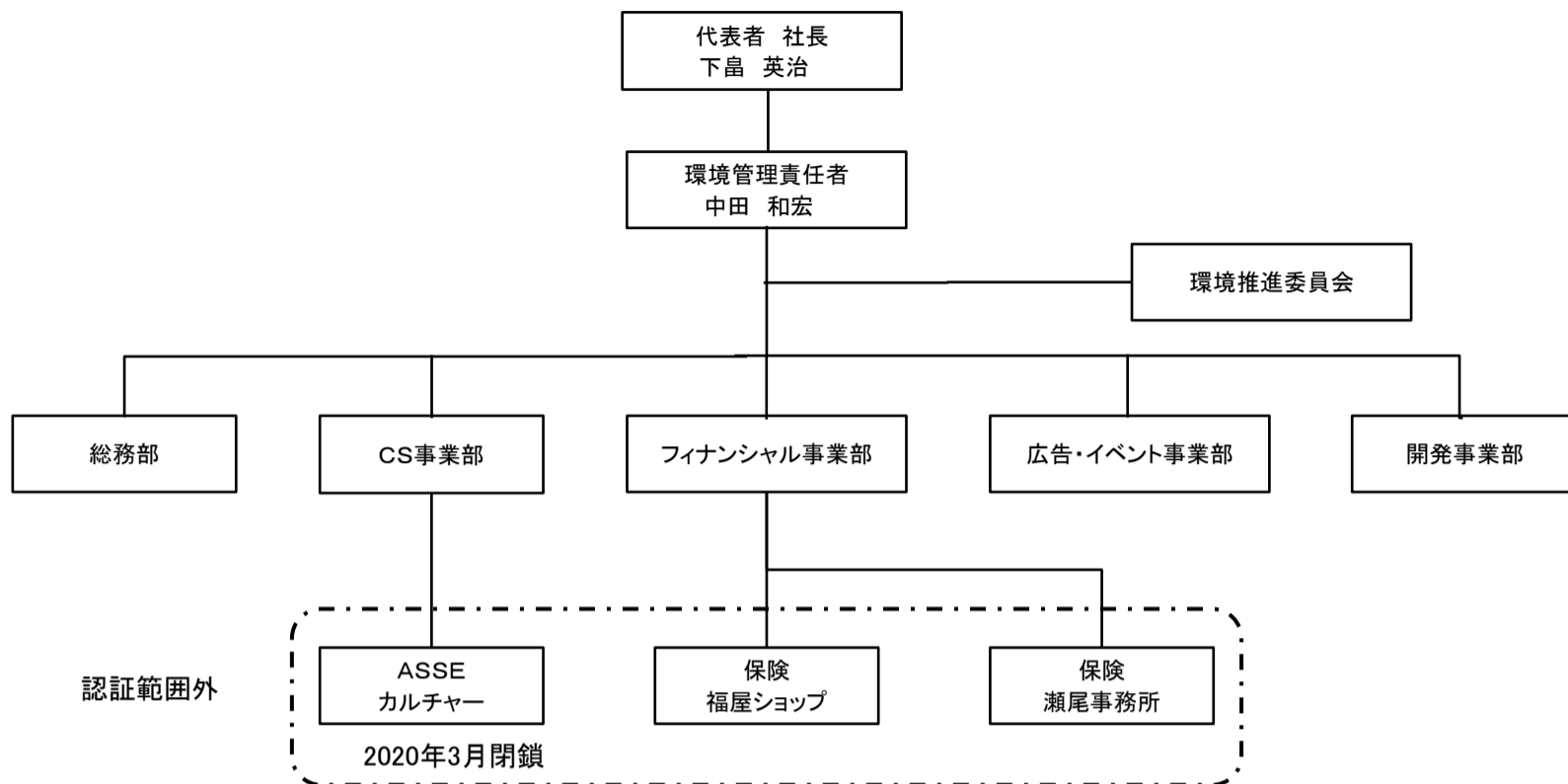
□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社RCC文化センター
代表取締役社長 下畠 英治
- (2) 所在地
本 社 千730-0015 広島県広島市中区橋本町5-11
ASSEカルチャー教室 千732-0822 広島市南区松原町2-37広島駅ビルASSE7階
保険・福屋ショップ 千730-8548 広島市中区胡町6-26福屋八丁堀店8階
保険・瀬尾事務所 千721-0975 福山市西深津町6丁目7-11
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 総務部長 中田 和宏 TEL:082-222-2215
FAX:082-222-2270
E-mail:nakata.k@rcc.co.jp
- (4) 事業内容
貸会議室・駐車場・カルチャースクールの運営、保険代理店業、店舗環境演出事業、
広告・イベント事業、指定管理による施設運営
- (5) 事業の規模
- | | 本社 | ASSEカルチャー | 保険・福屋ショップ | 保険・瀬尾事務所 | 指定管理4か所 | 合計 |
|------------------------|---------|-----------|-----------|----------|---------|----|
| 従業員 (人) | 53 | 1 | 0 | 4 | 11 | 69 |
| 延べ床面積(m ²) | 7649.85 | 248.13 | 14.52 | 30.39 | | |
- エコアクション21対象従業員数(本社) 53名
- (6) 事業年度 4月～翌年3月

□認証・登録の対象組織・活動

- 登録事業者名: 株式会社RCC文化センター
対象事業所: 本社
対象外: ASSEカルチャー教室 (2020年3月ASSE閉館)
保険・福屋ショップ (2022年3月までに登録予定)
保険・瀬尾事務所 (2022年3月までに登録予定)

□実施体制



□役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長) 下島 英治	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 中田 和宏	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 環境経営計画の実施結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境推進委員会 (各部門から選任)	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成、審議 環境経営計画の実績集計、評価、見直し 環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 環境教育訓練計画の作成と実施の管理、実施結果の評価 特定された項目の手順書作成 (緊急事態への対応を含む) 環境経営レポートの作成、公開
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営の実施及び達成状況の報告 特定された項目の運用管理 自部門の環境上の緊急事態の想定と対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□環境経営目標及びその実績

(1)目標

年度		2017年度 基準年度	2017年度 11~3月 実績	2018年度 11~3月 目標	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
項目							
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	414,507	170,534	168,828	410,361	406,216	402,071
	対基準			△1%	△1%	△2%	△3%
電力使用量削減 ※1	kWh	578,244	237,477	235,102	572,461	566,679	560,897
	kg-CO ₂	391,471	160,771	159,163	387,556	383,641	379,726
	対基準			△1%	△1%	△2%	△3%
	達成手段				①空調温度の適正化 ②不要照明の消灯	①照明器具更新 ②印刷物の削減	①節電運動の継続
ガソリン 使用量削減	L	9,929	4,208	4,166	9,830	9,730	9,632
	kg-CO ₂	23,036	9,763	9,665	22,805	22,575	22,345
	対基準			△1%	△1%	△2%	△3%
	達成手段				①不要なアイドリングをストップ ②急加速・急停車の防止	①急加速の抑制 ②こまめな適正空気圧チェック	①エコドライブの継続
II. 廃棄物排出量							
一般廃棄物削減	kg	3,088	1,320	1,307	3,057	3,026	2,995
	対基準			△1%	△1%	△2%	△3%
	達成手段				①分別によるリサイクルの推進 ②ミスコピーの防止 ③裏紙の使用	①リサイクルの徹底 ②ミスコピー防止の継続	①ミスコピー防止の継続 ②廃棄物の仕分けにより削減
産業廃棄物削減	t	0.7500	0.000		0.7425	0.7350	0.7270
	対基準				△1%	△2%	△3%
	達成手段	汚泥のみ記録あり			現状把握	排出量及び排出場の把握を中心とした次年度目標設定用データ分析	2019年度の排出実績および排出元データに基づいた削減対策の推進
III. 水使用量削減	m ³	2,386	761	753	2,362	2,338	2,314
	対基準			△1%	△1%	△2%	△3%
	達成手段				①節水の周知徹底 ②節水協力の掲示	①節水意識の向上 ②手洗い時の節水	①節水意識の継続 ②会議室等利用者に節水のアナウンス
IV. 化学物質使用量の削減	kg	不明					
	対基準				実態調査		
	達成手段				化学物質の成分や過去の使用実績など調査し、把握する	使用実績を管理し、可能な限りPRTR物質を使用しない商品に切り替える。	使用実績を管理し、可能な限りPRTR物質を使用しない商品に切り替える。

※1 中国電力株式会社の平成29年度実績の調整後排出係数0.677kg-CO₂/kWhを用いた。

項目	年度	2017年度	2017年度	2018年度	2018年度	2019年度	2020年度
		基準年度	1～3月 実績	1～3月 目標	目標	目標	目標
V.グリーン購入		不明	81.26%	82.07%	82.07%	行わない	行わない
	対基準			+1%	+1%		
	達成手段				①PHVプリウスを1台購入 ②文房具エコ購入比率実態調査	2018年の調査結果に基づいて、グリーンラベル商品への転換を進め、新規商品は、グリーンラベル商品の購入を行うことを従業員に徹底する。	従業員へのグリーン購入意識の徹底度合いを測りながら、継続的活動へ進化したと判断した段階で、新規商品のグリーンラベル確認という定性的な目標に変える。
項目	年度	2017年度	2017年度	2018年度	2018年度	2019年度	2020年度
		基準年度	11～3月 実績	11～3月 目標	目標	目標	目標
V.紙使用量の削減		不明					2019年度
	対基準					実態調査	△1%
	達成手段					使用量把握を行い、次年度目標設定を行う。	2019年度の実績データに基づき削減対策の推進
VI. SDGsの取り組み推進		神楽公演	神楽公演				
			社内研修+SDGsマーク活用				
			カルチャー教室+SDGs				
			環境商材+SDGs				
			健康提案+SDGs				
			広告+SDGs イベント+SDGs				

(2)運用期間の実績

I. 二酸化炭素排出量の削減

削減目標の達成度＝目標÷実績(%)

項目	年度	基準	運用期間における実績			
			2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)		
			目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	170,534	168,828	154,982	108.9%	○
	対基準		△1%	△9%		

1)電力使用量削減

取組み		コメント				
①空調温度の適正化(冷房28℃暖房20℃)		節電の呼びかけを事務室内や貸会議室にも掲示した。また、暖冬でもありその結果、目標を達成した。				
②不要照明の消灯						
項目	年度	基準	運用期間における実績			
			2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)		
			目標	実績	達成度	評価
電力使用量削減	kWh	237,477	235,102	218,246	107.7%	○
	kg-CO ₂	160,771	159,163	147,752		
	対基準		△1%	△8%		

2) ガソリン使用量削減

取組み		コメント				
①不要なアイドリングをストップ ②急加速・急停車の防止		エコドライブの実践、ハイブリッド車の購入の影響でガソリンの使用量について目標を達成した。				
項目	年度	基準	運用期間における実績			
		2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)			
			目標	実績	達成度	評価
ガソリン使用量削減	L	4,208	4,166	3,116	133.7%	○
	kg-CO ₂	9,763	9,665	7,230		
	対基準		△1%	△26%		

II. 廃棄物排出量

取組み		コメント				
①分別によるリサイクルの推進 ②ミスコピーの防止 ③裏紙の使用		一般廃棄物は、ごみの分別の徹底、今まで可燃ごみとしていた小さな紙類をリサイクルするよう変更した。結果、目標を達成した。 産業廃棄物に関して、汚泥のみ記録があり、事務所全体の廃棄物の把握が必要となる。				
項目	年度	基準	運用期間における実績			
		2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)			
			目標	実績	達成度	評価
一般廃棄物削減	kg	1,320	1,307	1,002	130.4%	○
	対基準		△1%	△24%		
産業廃棄物削減	トン	0.75	0.743			-
	対基準					

III. 水使用量削減

取組み		コメント				
①節水の周知徹底 ②節水協力の掲示		トイレの節水協力などはお願いしていたが、主にはテナントで入っているレストランでの使用になり、周知等を怠っていた。				
項目	年度	基準	運用期間における実績			
		2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)			
			目標	実績	達成度	評価
水使用量削減	m ³	761	753	815	92.4%	×
	対基準		△1%	+7%		

IV. 化学物質使用量の削減

取組み		コメント				
		化学物質の成分や過去の使用量実績など調査し、目標を定める。				
項目	年度	基準	運用期間における実績			
		2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)			
			目標	実績	達成度	評価
化学物質使用量削減	kg					
	対基準					

V. グリーン購入

プラス目標の達成度=実績÷目標(%)

取組み		コメント				
①PHVプリウスを1台購入 ②文房具エコ購入比率実態調査		業務で必要な文房具に必ずしもエコマークがついているわけでもなく、結果、目標を達成することが出来なかった。				
項目	年度	基準	運用期間における実績			
		2017年度 1月～3月	(2018年度1月～3月)			
			目標	実績	達成度	評価
グリーン購入		81.26%	82.07%	72.08%	87.8%	×
	対基準		+1%	△12%		

VI.SDGsの取り組み推進

取組み		コメント				
①SDGsを従業員へ浸透させる ②各事業でSDGsをどのように進めるか検討する ③SDGsの社内外への発信 ④神楽公演を継続、本業でのSDGsの検討		社内での周知から始まり、節電、節水看板やカルチャー教室のパンフレットにSDGsのマーク等を記載した。今後さらに本業に落とし込んでいく必要がある。				
項目	年度	基準	運用期間における実績			
		2017年度 11月～3月	(2018年度11月～3月)			
			目標	実績	達成度	評価
SDGsの 取り組み推進	対基準	実績なし	・神楽公演の企画を実施。 ・節電、節水、ごみの分別協力でSDGsマークを表示。 ・カルチャー教室のパンフレットにSDGsマークを掲載。			△

注)評価欄にて、○:達成、△:やや未達成、×:未達成

□緊急事態の対策および実施

火災発生の場合、緊急対応を適切に行うことにより貸室・駐車場利用者と従業員の安全及び火災による環境汚染を防止します。そのための消防訓練を年1回実施します。

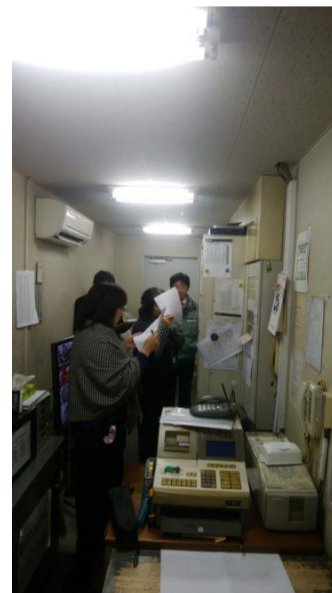
2018年12月26日10:00～11:30に実施しました。



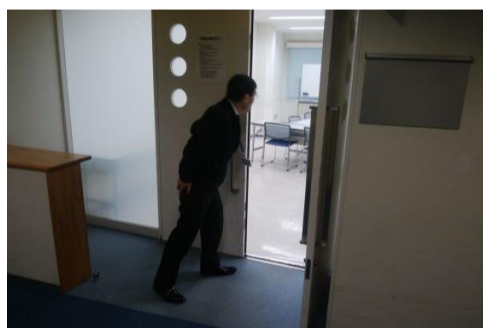
【消火器訓練】水消火器で消火訓練



【消火作業訓練】
消火器・消火ホースで火元消化訓練



【防災センター内】
館内アナウンス・火元との連絡



【貸会議室利用者への呼掛け】
逃げ遅れた利用者がいないか確認

□環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	収集業者の収集運搬・処分について、処理委託契約書による収集廃棄物の内容確認	遵守
フロン回収破壊法	業務用空調冷凍機器の廃棄時のフロン類の回収 保守契約	遵守
消防法	防火管理者の届出、消防計画の作成、消防訓練の実施、消火設備・火災警報設備の点検整備	遵守
下水道法	排水設備清掃報告による排水基準の遵守	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等はありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

当社は、エコアクション21の認証登録を目指し環境活動を開始して、初めて評価を行います。二酸化炭素削減など環境への負荷を減らすことを企業として引き続き行っていきます。そのためには従業員の意識向上、また貸会議室を利用する方への協力呼びかけなど行っていきます。

さらに、本業にSDGsの考え方を取り込んでビジネスチャンスに結び付けることを考えます。20年前から行っている「神楽公演」は、地域活性化として継続していきます。ラジオ番組「京橋の杜」を活用して環境に関する情報発信も検討します。

最後に登録対象事業所は本社のみで活動を開始しましたが、他の事業所については2022年まで登録予定です。

2019年4月12日

代表取締役社長 下畠 英治

□環境経営活動の紹介



【節電】事務室および貸会議室で節電協力の掲示



【節水】事務室および貸会議室フロアのトイレで節水協力の掲示



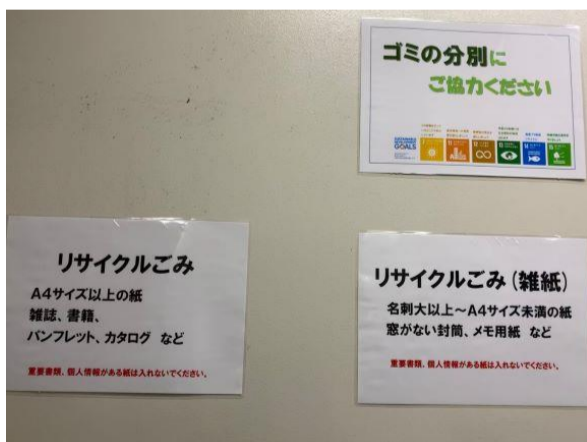
【エコドライブ】社用車駐車へ行くエレベーター内にエコドライブを協力の掲示



【ごみ分別①】不燃、可燃、ペットボトル、ビン・缶、リサイクルを分別収集



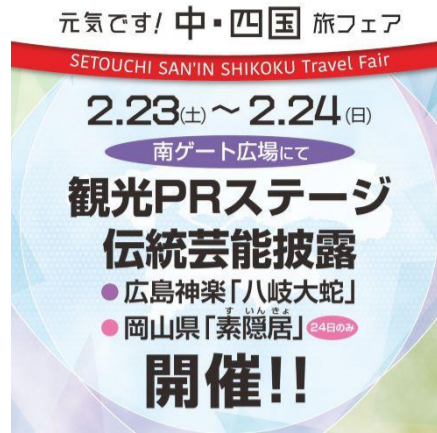
【ごみ分別②】ごみ収集場所へSDGsマークを使用した協力を事務室ごみ、貸会議室に掲示



【ごみ分別③】今まで可燃ごみだったA4未満サイズの紙をリサイクルに変更



【カルチャー教室パンフレット】
SDGsのロゴを用いて、今後SDGsの推進を図る



【神楽①】2/23,24 中四国フェアにて伝統芸能披露の案内(大阪)



【神楽②】2/23,24 中四国フェアにて神楽披露(大阪)



【神楽③】1/2,3 新春神楽まつり



【神楽④】2/17 早春神楽共演大会



【神楽⑤】インバウンド神楽(広島県からの受託事業)
夜のにぎわい創出